

令和5年度 横浜氷取沢高等学校姉妹校交流（オーストラリア）の取組

1. 例年の取組

本校は平成27年度より南オーストラリア州のアデレードにあるパラフィールドガーデンズハイスクール（以下 PGHS）と交流を行っている。例年は9月に PGHS 生が来校し、希望生徒宅へのホームステイ、鎌倉での校外学習活動（国際交流委員と一緒に散策）、本校の授業体験（英語授業への参加、国際交流委員が企画した HR 活動への参加、書道体験、部活動体験）をしており、3月に本校生徒（15名程度選抜）が PGHS へ訪問し、同様にホームステイ、学校での授業体験を行っている。令和2年度より、オンラインでの交流を定期的に行っている。

2. 今年度の取組

令和5年度についても昨年度に引き続きオンライン交流を行った。今年で4年目のオンライン交流となり、今年については、合計で8回のオンライン交流を行うことができた（令和2年度4回、令和3年度6回、令和4年度8回）。参加生徒は書類選考、面接を通して組織した1・2学年の16名である。これまでのオンライン交流の様子から、できるだけ生徒同士が少人数（1対1，1対2）になるように配慮し、交流がスムーズに進むように配慮した。また少人数同士の交流だけでなく、お互いの学校の代表生徒が全体場でプレゼンテーションをする時間を設けることで、優れたプレゼンテーションを共有した。

3. オンライン交流の具体的内容

次が実際のオンライン交流の内容である。

・日程

第1回	5月30日	自己紹介
第2回	6月13日	自己紹介、お互いの学校紹介
第3回	7月25日	お互いの学校紹介、部活紹介
第4回	8月29日	放課後の過ごし方
第5回	9月19日	文化祭紹介
第6回	10月17日	修学旅行について、キャンパスツアーについて
第7回	11月7日	日常会話
第8回	11月21日	お互いの生徒による英語、日本語のミニレッスン

生徒はそれぞれのトピックについてタブレット端末で英語のスライドを作成しておき、交流日はオンライン上で画面を共有しながら相手へプレゼンテーションを行い、内容に関する質問をし合った。交流校の生徒は日本語を学習している生徒のため、相手校の生徒は日本語でプレゼンテーションを行うこともある。

4. オーストラリア交流委員の感想（抜粋）

以下は今年度参加した生徒の活動に対する振り返りである。例年のオンライン交流からも感じられるように、実際に同年代の外国人との交流が英語でのコミュニケーションに対する意欲の向上につながっていることが読み取れる。

生徒A

これまでの交流を振り返ってみて、最初の方はスライドを作ることに時間もかかっていて、説明文も思いつきにくかったが、徐々にやっていく中で、慣れ始めていきスラスラとスライド作成・説明文に取り掛かることができるようになった。それに、英語のコミュニケーションで簡単にやり取りをしたりすることができた。

生徒B

最初はどんな感じで交流をしたらいいか分からず戸惑っていましたが、回数が増えるごとにプレゼンのスライドに工夫をしたりすることが出来るようになりました。また、コロナ禍という大変なご時世の中、できる範囲で楽しく交流ができています。横浜氷取沢高校で、国際交流に積極的に取り組みたいと思っていたのでそれを実現することができとても、嬉しいです。今年度に限らずこのオンライン交流・姉妹校交流に積極的に取り組みたいと思います。

生徒C

自分の英語が相手校に伝わったときすごく嬉しくて次も早くやりたいと思った。スライドをがんばって日本語で伝えている相手校の生徒を見て自分もまだまだ英語頑張ろうと思った。アドリブで英語を使うのがまだ苦手なので色々な単語や熟語を勉強してもっとスラスラ話せるようになりたい。

5. 今後の展望

例年のオンライン交流と同様に、参加した生徒の振り返りを分析し、次年度以降の交流に役立てられるようにする。また、担当者間で調整をし、令和6年度から学校訪問を再開予定である。これまでに蓄積してきたオンライン交流のノウハウを生かし、直接交流の充実を図りたい。例えば、ホストファミリーとの事前オンライン交流や、バディとなる生徒とのオンライン交流をすることで、現地に行ったときにスムーズに学校訪問やホームステイができるように企画していきたい。